

# 「霊界と私たち」

みなさんこんにちは。

今日は、『真なる子女の道』に収録されたみ言を中心にお話をしていきたいと思います。 真のお父様が語られる、二世たちに対するみ言から、神様が子女に願われる思いを感じ取っていただけたらと思います。

今日は「霊界」というテーマです。

私たちが死んだ後にどのような世界が待っているのかという話です。皆さんは霊界について考えてみたことがありますか？

真のお父様は、霊界がどのような世界かを教えて下さるために、このように語られます。

「皆さん、飛んでみたことがありますか？（いいえ）。飛んでみたことはないでしょう。しかし人間はどんな鳥よりも、どんな昆虫よりも高く飛ぶことができ、遠く飛ぶことができるなければならないのです」（『真なる子女の道』21 ページ）

「人間は万物の霊長であり、また神様は霊的な存在なので、その方と対等な主管圏であるとか、その方と対等な相対的位置へ立とうとすれば、その活動舞台も神様と同様でなくてはならないのです。今日、光の速度は一秒間に三十万キロメートル走るのですが、それよりも、もっと速く作用することのできるのが人間なのです。それが何かというと、霊人体なのです」（同、21～22 ページ）

「私たちは、新しい世界の息子娘にならないといけないのですが、その世界の本家のような素晴らしい家はどこにあるのでしょうか？ それが霊界だということです」（同、22 ページ）

お父様は霊界での生活をこんなに素敵に表現されます。神様の事を誰よりもわかる真の父母様は、神様が親として、子女である私たちと永遠に共に生きる霊界を、どれほど素晴らしい所として創造されたのかが分かるのです。

皆さんは、死んだらどうなると思いますか？

「善なる生活をしたら天国に行く」とか、「悪いことをすると地獄に行く」とかという話を聞きますよね？

でもそんな事は、実際に死んでみなければ分かりません。もしかして、人間が死んだら土に返って、何も無くなるだけなのかもしれないですね。

御父母様は、若者たちに対して、神様の事を教えるのと同じくらい、「霊界」の事を教えることが重要だとおっしゃいます。霊界のことを理解すれば、私たちが生きる地上生活をどう生きたら良いのかがよりよく分かるようになるからです。

み言では、私たちの人生を三段階で表現することで、霊界に行くまえの地上での生活の重要性を気付かせてくれます。

「人間が生きることの中で、第一の復活、第一の誕生は胎中での生活です。第二の誕生は現在の皆さんなのです。その次に、第三の誕生は神様に帰ることなのです。夫婦が一つになり、世界のすべての人々のためになる時に、私たちは無形なる神様のもとに帰ることができるのです。それは、愛のみが可能なのです。あの世に行くにも、そのような愛の理想の神様を標準として、そこに同化できる訓練を受けて行けば、神様のようになれるのです。神様の友達になれるのです。皆さんはすべて、そのような第三の誕生を経なければならないのです」（同、27 ページ）

人間は地上に誕生する前に、母親のお腹の中で十月十日を過ごし成長します。そこで地上生活に必要な手足が出来て、顔のパーツも整ってきます。羊水の中にいる時にはまつ毛や眉毛は必要ありません。しかし誕生した後に待っている地上生活で必要とされるものが、この期間に備えられていくわけです。

妊婦さんは、何故胎教を大事にするのでしょうか？

それは、生まれてくる子供が五体満足で、地上でより良く、幸せに暮らす事が出来るように願うからです。

皆さんも、家に帰ったらお母さんに、自分が生まれる前にどれほど自分のことを大事にしてくれていたのかを聞いてみてください。

きっと自分が生まれる為に、真心を尽くしてくれた母親の思いに感動すると思いますよ。

だとしたら、「地上生活をなぜ大事にするべきか？」という問いに対する答えも自ずと出て来ます。

今の生活は、永遠の世界である霊界に行く前の準備期間なんです。こんな事を考えて生活してみた事がありますか？

永遠の世界である霊界は、愛しあう兄弟姉妹たちと共に、願うことが何でもなせる、喜びを分かち合うことが出来る世界です。そして親である神様は、皆さんとの幸せな永遠の生活を願い、待ち焦がれています。

つまり、霊界で永遠に神様と一つになることが、私たちの人生の目的なんです。

だから、多くの宗教が、地上生活で為に生きるという事を教えています。

人と人が互いに為に生きることで一つになれるからです。家族でも、クラスでも、自然に助け合える関係性~~性~~があると幸せです。互いに助け合う事で、共にありたいと思いあえる関係が築かれます。そういう場にいると居心地がよく、そういったクラスの友人たちとはいっまでも楽しく、離れがたい雰囲気になります。

しかし、お互いに要求しあうとどうですか？ 子供は親に愛する事を要求し、親も子供に自分の願いを押し付けるようだと、お互いに家にいるのが窮屈に感じ大変です。

学校での人間関係もそうだと思います。お互いに要求し合う心は、やがて批判や不満の思いを募らせます。「なぜこうしないのか？」、「もっとこうしたら良いのに」。そんな思いが関係性の中で蔓延してくると、そのクラスは非常に居づらい空間になります。

こういった私たちの心は、目には見えませんが、互いに作用しあって、間違いなくクラスの雰囲気を形作っていきます。霊界も目には見えませんが、私たちの心と同じように存在し、私たちの心と連動しながら形成されていきます。

真のお父様は、利己的に、自分勝手に生きたらどういう霊界にいくのかについて、こう語られま

す。

「他のために生きずに、自己のために生きればどうなるかという、あの世に行ったら、個人を中心として生きた人々は、あの世の個人クラブに入るのです。個人クラブでは皆、お互いに為に生きようとはしません。お互いが譲歩せず、喧嘩ばかりするのです。このような個人クラブに入れば、永遠に抜け出せないのです。個人を主として生きてきた人が霊界に行けば、他の所に移ろうとしても永遠に越えていけないのです」（同、28 ページ）

こんなクラスで一年間過ごしたとしたら、まるで地獄のようですね。  
これが、永遠に続くのだということです。

地上での生活は有限ですが、そこで成長させた心、霊人体は永遠の世界で生きようになるという事を考えてみてください。

また、為に生き合う霊界に行きたいか、自分勝手に喧嘩ばかりする霊界に行きたいかと問われれば、どうでしょう？

地上生活で愛を成長させて、真の愛を身に着けて、霊界では神様と一つになって永遠に喜び合えるようになりたいというのが、国を超えて、宗教を超えて、誰もが願う思いではないでしょうか？  
み言を読みます。

「私たち人間は真なる愛をなぜ必要とするのでしょうか？ 神様の本然の世界、理想的なその世界に行って、真なる愛を体験した人は、神様が願うすべてのことを即時的に所有できる能力と権威を持つことができるのです。それでは、その資格をどこで完成できるのでしょうか？ それは、地上で成し遂げなければならないのです。霊人体という言葉を知っているでしょう？ その霊人体を中心として、肉身と一つになる過程において、初めて神様の愛の接続点ができれば、そのような位置に立つことができるのです。ですから、皆さんは、神様を愛さなければなりません。

どのようにすれば神様の愛を感じることができるのかというと、それは同胞を愛し、世界の人々を愛し、万物を愛さなければなりません。そのように、愛さなければならないのです。そこで、愛の感情を感じなければならないのです。いかなる国の人も五色人種を愛する、愛の心を持たなければなりません」（同、23～24 ページ）

真の父母様は、全人類を子女として愛され、互いに為に生き合う人類一大家族世界、地上天国、天一国を築こうとされています。なぜでしょうか？ それは親であられる神様を愛しているからです。すべての人類が真の愛を中心として地上で為に生き合い、そのうえで霊界に行った時に、はじめて神様がすべての子女と一つになって喜び合うことが出来る天上天国になるからです。

きっと神様は、成長して真の愛を身に着けた皆さんと、たくさんの喜びを分かち合いたいと願われ、皆さんの成長を見守ってくださっています。

皆さん。

永遠の世界で神様と一つになることを夢みながら、是非、若き日に多くの人を、多くの万物を愛し、為に生きることで、霊人体を成長させられる、心が豊かになる経験をたくさん積んでいってください。今日は『霊界と私たち』という題目で説教をしました。ありがとうございました。